

別記様式第7号

公益信託ぎふNPOはつらつファンド  
実績報告書(事業助成用)

平成19年4月1日

公益信託ぎふNPOはつらつファンド受託者  
三菱UFJ信託銀行株式会社 御中

住 所: 〒502-0908  
岐阜県岐阜市近島4-1-10  
法 人 名: 特定非営利活動法人  
ぎふし森守クラブ 印

代表者名: 理事長 神山輝男

公益信託ぎふNPOはつらつファンドから平成18年度(前期・後期)の事業助成を受けた事業が完了しましたので、下記のとおり関係書類を添えて報告します。

記

1. 事業名

森林ボランティア活動育成支援

2. 助成の種類 該当するものに を付けてください。

法人設立前事業助成	立ち上げ時期事業助成	展開期事業助成	人材育成事業助成
-----------	------------	---------	----------

3. 助成金額

既交付金額	1000千円
実績額	1000千円
差し引き額	0千円

4. 事業実施期間

平成18年4月1日 ~ 平成19年3月31日 ( 1 年 か月間)

## 5. 実施した事業の実績・成果

(1) 具体的な活動状況（実施日時、場所〔住所〕、対象者、参加者等）				
事業内容	実施日時	場所	対象者	参加者等
伐木チェーンソー作業 特別教育講座	8月26, 27日	ながら 川ふれ あいの 森	一般	20名
刈払い機取扱作業 安全衛生教育講座	9月 2日	〃	〃	20名
第5回ドングリこま 回し大会	10月15日	〃	〃	151名
落葉広葉樹（花木）の 植樹会	9月16日	〃	会員	10名
	11月 5日	〃	会員・一般	23名
	12月10日	〃	〃	11名
竹籠作り・花器作り	11月11, 12日	〃	〃	31名

  

(2) 活動の成果（開催行事等の参加規模、目的の達成度、効果等）
<p>○ 伐木・チェーンソー刈り払い機取扱作業特別教育（各20名）</p> <p>講座の参加者は、それぞれの安全教育の内容や実技を体験し、全員終了証を受領する事ができました。この企画に対し、参加者の方から感謝の声が寄せられ、開催の目的が達せられたものと判断しております。岐阜県が推進している「木の国・山の国」県民の森林づくりに貢献できるものと期待しています。</p> <p>NPO法人として発足して以来日の浅い当クラブは、今後の森林保護活動に役立つ効果が期待できます。特に森林育成の作業は、危険を伴うことが多いため、有資格者が増えたことは、それだけ森づくりの人材養成に役立ったこととなります。また、新しくボランティア活動に取り組もうとしている人達に対する啓蒙宣伝の効果を期待する事も可能であり、この企画効果はありました。</p> <p>今後、この取得した資格を活かして、荒廃した放置山林の手入れ等を行い、ふれあいの森を利用する一般市民の憩いの場作りを更に進めていきたい。</p> <p>○ 第5回ドングリこま回し大会（参加者 151名）</p> <p>成績      ジュニアの部 1位 46秒              シニアの部    〃 73秒              アダルトの部   〃 69秒</p> <p>当日は晴天に恵まれ、親子連れの参加者が多く盛会でした。開会式後、参加者をアベマキ・コナラの森へ案内し、コマの材料となるドングリを拾い集めました。コマ作りは屋外の休憩台を活用し、講師の指導により作成後、台上で練習し、センター研修室にて競技を実施しました。また、競技待ち時間を利用して開催したクラフト教室（ペーパートンボ、ストロー飛行機、紙ブーメラン、ストラップ作り）や、竹材を利用した竹馬・竹下駄・竹ポックリなどの遊びは子供たちに好評でした。</p> <p>ながらがわふれあいの森の存在を市民にPRするイベントの一つとして効果は、継続し</p>

て行うことによってより広く浸透するものであり、ドングリコマ回し大会は、当クラブの行事のとして毎年続けてきたものです。県教育委員会・岐阜市・中日新聞社の後援もその効果をさらに向上させるものであります。

今年のドングリの成り具合は良くありませんでしたが、大会を成功させることができ、記録も好記録でした。森の働きは仕組みを知っていただく絶好の機会であり、その意味でも成功した大会であったと評価しています。

○ 落葉広葉樹の植樹会

地拵え

- ・ 植樹する法面に繁茂している雑草・灌木、つる類を刈り払って筋置きする地拵え作業を実施しました。

植付（1回目）

- ・ 造園業者より購入した苗木（ヤマザクラ・ヤマボウシ）を植え付ける作業を実行しました。
- ・ 苗木の配置を考慮し位置を決定の上、穴を掘りました。
- ・ 丁寧に苗木を植え、土を戻ししっかりと固定しました。

支柱は、苗木の左右に配置し、杭打ち機（重り）を使用し、地中に打ち込み、横木をあて、針金で固定しました。また、当て布を苗木にあて、横木に縛りました。

植付（2回目）

前回一部仮植していたものを植え付けし全量の植栽を終了しました。

以上の作業により、植付を終了しましたが、現地は林道開設による土捨場の斜面でつる類の繁茂が著しい場所であるので、成林するまでの手入れをしっかりとすることが必要です。

○ 竹箆・花器作り

竹林整備によって生じた竹材を有効に生かした竹箆作りや、花器作りに挑戦し、成果を上げることができました。当クラブでは初めての企画でしたが参加者にも好評ででき上がりもよかったとの感想でした。

当クラブでは、竹林整備の作業を会員の所有竹林において実行してきており、啓蒙活動の一環として企画したものであり、それなりの手応えがあったと評価しています。今後も続けて行きたいと考えております。

### (3) 今後の課題

NPO法人となって2年近く森林ボランティアの諸活動を体験してきました。

今年度は、森林従事者として必要な資格を有する会員養成を重点に貴ファンドの助成をいただき、有資格者を揃えることができました。

今後は、この資格を生かした活動を広げることができるよう、行政当局のご支援をお願いしたいと考えております。現在は、「ながら川ふれあいの森」の中での活動を続けていますが、事業区域を広げて、育成段階にある放置林の民有林の間伐等を手がけ里山保全の支援活動を今後も進めることを希望しています。

一般参加者を如何にして森林保全や環境問題に目を向けさせ拡大するためには、会員の質的向上を図りつつ、外を向けて積極的にアピールする事が必要です。

特に来年以降団塊世代が増加する時期を迎えますので、その受け皿として活動できる体質となるようにしたい。また、同種森林保全グループとの連携や、情報交換を図りながら積極的に活動する事によって、ボランティア団体の力量を上げたい。